



2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

9月30日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ
公式予選／7番手
10月1日(日曜日) 天候：曇り 路面：ドライ
決勝／6位
開催地：岡山県・岡山国際サーキット（1周=3,703km）
入場者数：8800人（2日間合計）

全日本ロードレース選手権第8戦が岡山国際サーキットで開催された。ここは、TOHO Racingにとってホームコース。昨年は、ヘビーレインの中、山口辰也が独走優勝を果たしたのも記憶に新しいところだ。今年も、その再現をとチームは、ニュー CBR1000RR SP2を事前テストから精力的にセットアップ。新しく張り替えられたアスファルトは、グリップもよく、順調にマシンを仕上げて行っていた。

レースウィークは、金曜、土曜と秋晴れ、日曜は、雲が多かったものの観戦日和となり、TOHO Racingの応援ツアーを始め、多くの方が、応援に来てくれていた。しかし、金曜日のART合同走行が始まると、事前テストとフィーリングが変わってしまっていた。45分の走行が2本と限られた時間の中で試行錯誤し、マシンをアジャストして行く。初日は、2本目の最後に出した1分29秒257がベストとなり6番手につけていた。



今回も前戦と同じく全車が走るQ1、Q1のトップ10が走るQ2という2段階のノックアウト方式で行われた公式予選。40分間で行われたQ1では、マシンセットを進めながら周回。途中赤旗中断があったが、決勝を見据えて走行を重ねる。タイムは、計測4周目に記録した1分29秒391で10番手となり、Q2に進出。15分間で行われたQ2でもマシンを確認し、アタックするものの1分29秒281と金曜日のタイムを上回ることができず10番手となる。

決勝日朝のウォームアップ走行も使いマシンを少しでもよくしようとチームは努力を続けた。その甲斐もあり決勝は、レースウィークで一番いい状態で臨むことができていた。高速コーナーが続く前半セクション、タイトな低速コーナーが続く後半セクションというレイアウトの岡山国際サーキットは、約3.7kmと比較的短いですが、そのコース長以上にライダーには、体力的にも精神的にも技量が要求される。そのコースを24周で争われた決勝。山口は、4列目と後方からのスタートだったこともあり、ポジションをうまく上げられずオープニングラップは、10番手でホームストレートに戻って来る。2周目に1台をかわし9番手に上がると、前のライダーに迫って行く。そして4台からなる6番手争いを展開。ラップタイムは、予選を上回るペースで周回し、これからポジションを上げて行こうと思っていた18周目、そのアクシデントは起こってしまう。ダブルヘアピンの2個目の進入でバックマーカーと接触。山口は、転倒を喫してしまう。何とか再スタートするが、一度ピットインしマシンを確認。多くの方が応援に駆けつけてくれていたこともあり、最後まで走りたいと再びコースに戻った山口は、2周遅れの30位でチェッカーフラッグを受けたのだった。

ST600クラスに参戦しているTOHO Racing Clubの行村和樹は、決勝日朝のウォームアップ走行で転倒。マシンを何とか修復し、グリッドに付いた行村は、追い上げのレースを見せ自己最高位の9位でゴールした。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「レースウイークの中で決勝が一番いい状態でしたし、これからと言うところでのアクシデントでした。TOHO Racing応援ツアーの皆さんを始め、本当に多くの方が駆けつけてくださっていましたし成績で応えたかったのですが…。もっとよいポジションにいれば避けられたアクシデントだったと思います。次回は、早くも最終戦になりますが、8周と20周という変則の2レース制なので、いい結果を出せるように精一杯努力します」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「事前テストでは、路面コンディションもよかったのですが、レースウイークに入りフィーリングが変わってしまい、うまくバランスを取ることができなかったことが悔やまれます。もっと前にいることができれば決勝でのアクシデントも回避できたかもしれません。TOHO Racing のホームコースだけに、多くの方が応援に来てくださったのに申し訳ない気持ちです。次戦、鈴鹿は2レースあるので、気持ちを切り換えて、しっかり戦えるようにして行きます」

総監督 福間勇二コメント

「チームのホームコースということで、岡山国際サーキットには沢山の皆様が応援に来て下さいました。応援バスツアーにも沢山のご参加を頂き、応援くださった皆様に心より御礼申し上げます。皆様のご声援に結果でお応えしたかったですが、JSB1000 クラスではアクシデントで転倒があり申し訳ない思いです。しかし最後まで諦めず走りました。ST600 クラスも諦めず追い上げました。次戦はいよいよ最終戦となります。最後まで諦めない TOHO 魂で挑んで参りたいと思います」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当:野口